

# 広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく4月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼特集記事について  
 ・平成30年度の主な事業が分類してあってわかりやすかったです。  
 ・一般会計の内訳を棒グラフで示していますが、各内訳を指す線がどの部分を指しているのかわかりづらかったです。

・歳入歳出の内訳や昨年度からの増減、予算を含めた主な事業のピックアップなどもあり比較しやすい内容でした。  
 ・災害復旧を含めても予算が増額しているなど感じます。主な事業を見てもソフト事業よりもハード事業のほうがどうしても予算が多くなる傾向があり、今後も定期的に改修工事が必要ことから、今後は人口減少なども考慮しつつ、施設を増やすよりも今あるものでどう対処していくかが課題になるのかなと思います。  
 ・歳出の各費用に対してイラスト付きで説明されているため、直感的に分かりやすくなっていると思います。欲を言えば新規事業と継続事業を○と★だけで分けるのではなく、きっちりと線引きしてあった方が町の

時間軸が見え易かったかなと思います。  
 ・町の運営について、一町民としてもっと関心を持って数字を見なければいけないと平日頃の自分の無関心ぶりを反省しました。数字だけを追っただけでも実体がわからないと感じました。わかり易くレイアウトしてくださっていると思いますが、実際の事業がどのように進められているのか、よく把握する必要があると感じました。

▼その他の記事について  
 ・表紙の写真が何のものがわかりませんでした。  
 ・人事異動について、転属先・名前(元いた部署)の順で書かれていたのですが、特に注意書きがなかったため、転属先か、元いた部署のどちらかがわかりづらく、またカッコ内の表記が行をまたぐと余計見づらく感じました。

・「屈足保育園の新園舎が完成」について、はだし教育や、かねてから定評のある屈足保育園のランチを通じた食育など、教育コンセプトが明確な保育園です。保育の必要性が増していることから、今後、保育のみならず、いかに子どもたちを教育していくかが重要なのだと思います。  
 ・屈足保育園では、新園舎での保育がはじまり、地域のご高齢の方々と交流も計画されているとのこと。異世代同士の交流から生み出される

メリットは多くあるはず。どんな成果があるのか、大いに情報発信をしていただきたいと思っています。  
 ・毎年人口の増減を見ています。年度末、年度始めは移動の時期なので、大幅減も仕方ないのだと思いますが、「住みたい」と感じていたいただけるような街の魅力の情報発信がより切実な課題だと感じました。

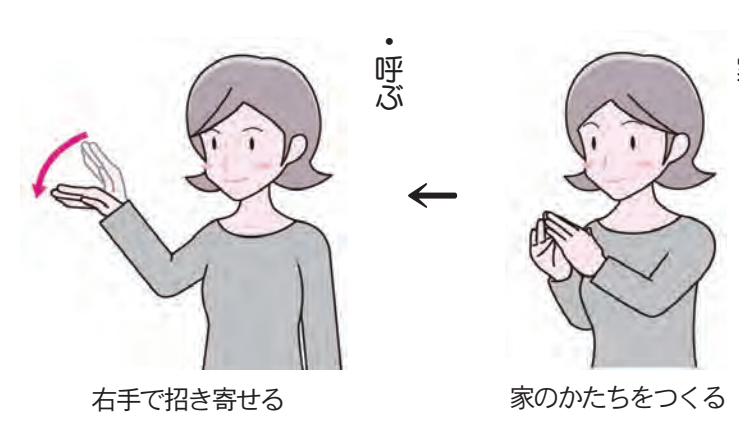
▼今月号全体について  
 ・寄附や社会貢献といった記事が印象的でした。町や子どもたちのためにも素晴らしいことであり、感謝すべきことで町もそうやって成り立っているのだと感じます。普段の生活の中ではなかなか実感することがないのでこのような情報はありがたいと思います。  
 ・まちの動きでは、小中学生の文武両道の活躍の数々、素晴らしいと思いました。

▼今後広報で取り上げるべきことなど  
 ・新得図書館は、近隣町村からすると知る人ぞ知る新得の「名所」。蔵書数や町民あたりの利用数とともに道内でも優秀です。もっとも町内の方が足を運び有効に活用されるよう、図書館だよりのコーナーを刷新してもいいかもしれません。  
 ・町民大学の内容にもう一工夫欲しいと思います。限られた予算の中

でのやりくりは大変だとは思いますが、成人が仕事の後でほっとできるような、単発でも良いので、以前の女子力アップ講座のようなものがあると嬉しいですね。

## ひびくと手話講座

ひびくと手話講座 No.44



## でっかいべあ〜!

4月27日 新1年生がベア・マウンテンを見学  
 ベア・マウンテンを運営する十勝サホロリゾートは毎年オープン前日に町内全校の新小学1年生を無料で招待しています。

この日は、新得小学校、屈足南小学校、富村牛小学校の児童55人が招待され、放し飼いエリアを巡回するバスに乗り込み、車窓からクマの生態を観察。ガラス張りの観察施設ベアポイントでは2mを超えるクマが巨体を起こして餌を食べる姿に児童たちは大興奮し、歓声をあげていました。



## 思い出の園舎に感謝とお別れ

4月7日 屈足保育園 旧園舎さよなら会

新園舎の供用開始により解体が予定されている、屈足保育園の旧園舎さよなら会が行われ、園児や保護者、卒園生、屈足地域の住民ら約40人が参加しました。

父母の会の田中恵美会長が「今までお世話になった園舎に感謝し、きれいに飾り付けをしてさよならしましょう」とあいさつ。参加者は保育室の壁などにチョークやマジックペンで「ありがとう」「お世話になりました」などのメッセージやイラストを書き、たくさんの思い出を胸に最後のお別れをしました。

# 話題のアルバム

## リングに巨大パンダあらわる

4月13日「大日本プロレス in しんとく」夜の試合に先だち、4人の選手が新得小学校を訪問して児童と一緒に給食を食べ、体育館で汗だくになるまで走り回って交流しました。

試合は町内外から300人が来場し、会場は熱気に包まれました。体長3m体重500kgのアンドレザ・ジャイアントパンダと戦ったアブドーラ・小林選手は、ピストルを出したりパンダの子どもを人質にとったりと卑怯な手を駆使するも、最後は巨大な拳にノックアウトされリングに沈みしました。

最後の蛍光灯デスマッチは3人対3人の試合。パイプイスも使った迫力ある流血試合に観客は歓声をあげていました。

今年で3回目となるこの大日本プロレスの試合は実行委員会事務局の山内久美子さんの声かけによって始まりました。試合の休憩中に山内さんから「自分一人では何もできなかった。たくさんの方にご協力いただき、来場者の皆さんに支えられて3回目を迎えられた。ありがとうございます」とあいさつがあり山内さんの合図で後半戦の火蓋が切られました。

保護者と観戦した宮脇冬弥くん、福田莉都くん(いずれも新得小学校3年)は「最後の試合が一番すごかった。パンダが(公民館の廊下の)天井に着くぐらいすごく大きかった。またあったら来たい」と話してくれました。



選手と給食を囲み、笑顔を見せる児童たち



会場を沸かせた巨大パンダVS人間



飛んだり投げたりと次々に技を繰り出す選手たち

実行委員の山内さん

